

はしがき

本書は、重要でありながら、なぜか従来あまりふれられてこなかった、英語の名詞にかかわる表現方法をわかりやすい切り口で展開したものです。

文法書などでは、英語の名詞といえば普通名詞や集合名詞といった分類や数え方、単数と複数で語形が変わるといったテーマが主で、それ以外のことがらはそれほどふれられていないのが現状です。本書を手にとったみなさんも、名詞は「名前を表す詞」だから、静的な (static) ものだと考えているのではないのでしょうか。

しかし、名詞に関してはもっと理解しておくべきことがたくさんあります。そしてそれらは私たち英語学習者にとっては名詞の分類などよりも重要であり、かつ実用的なものでもあります。

英語の名詞は想像以上に動的な (dynamic) 性質を備えているのです。

本書ではそうした名詞のダイナミズムにできるだけ焦点を当てています。たとえば、次の文の名詞 refusal は単なる名詞ではなくて、動詞の働きもしているのです。

His **refusal** to take part in the event disappointed us.

「彼がイベントの参加を断ったので、私たちはがっかりした」

この文の主語である名詞句 His refusal to take part in the event には *He refused to take part in the event* という〈主語＋述語〉、すなわち〈文〉に近い構造が隠されているのです。

また、次の文の名詞 presence は形容詞の役割も果たしています。

Her **presence** at the party pleased all of us boys.

「彼女がパーティに出てきたので僕たち男の子はみんな喜んだ」

この文の主語である名詞句の Her presence at the party には *She was present at the party* という〈主語＋述語〉の構造が含まれているのです。こうした〈主語＋述語〉の関係は**ネクサス**と呼ばれるものです。本書では1つの章を設けてネクサスについて説明しています。

また、英語は日本語に比べて人間以外の名詞を主語に使うという特徴があります。**無生物主語構文**と呼ばれるものです。これは英語と日本語の考え方の違いを知る上で興味深い事項です。もちろん、日本語にも無生物を主語とした表現があります。次のような表現は日常的に見聞きます。

台風20号は南西諸島を直撃した。

そのニュースは人々に衝撃を与えた。

では、次の2つの英文を見てみましょう。

(1) If you take this bus, you'll get to the museum.

(2) This bus will take you to the museum.

(1) (2) は同じ意味内容を表しており、どちらも英語としては市民権を得ている表現です。しかし、これらをそれぞれ日本語に直訳してみると、(2') には“?”がつく(日本語として不自然に感じられる)でしょう。

(1') このバスに乗れば美術館に行けます。

(2') ? このバスはあなたを美術館に連れて行ってってくれるでしょう。

なぜ英語では(1)(2)の文が両方とも可能なのに、日本語では(2')は不自然なのかという理由は学校や文法書ではほとんど説明されていません。本書はこうした、いわば「言葉の根幹に関わる事項」について斬り込んでいます。

本書によって英語と日本語の考え方や、モノのとらえ方の違いというものを理解することが、英文法を学習する上で重要であることをわかっていただければ幸いです。

勝見 務 (KATSUMI Tsutomu)

本書は全8章で成り立っています。目次をご覧になればおわかりのように名詞に関するさまざまな事項を取り扱っていますが、**これまで学校などで学習した、あるいは一般的な文法書で扱われている英文法とは趣向を変えています**。重要でありながら、これまで見過ごされたきたような事項をできるだけわかりやすく説明しています。

とりあえず、本書を軽く一読してみてください。そうです、小説でも読むような感じで結構です。読んでいるうちに、「ああ、なるほど、そうだったのか」と腑に落ちる箇所が何か所かきっと見つかることでしょう。そのあと、あなたの興味をそそられた章から順次、腰を据えてお読みください。

各章とも“0”のついた最初の項(例:1-0 情報の新旧と伝え方)はその章の概説的な内容になっています。まずここで、その章で扱う内容をおおまかにつかんでください。章によっては構成がほかとは異なるものがありますが、それはその章で扱う事項の性質によるものです。各章ともできるだけ多くの例文をあげるようにしました。例文は大半が簡単な文ですが、中には難しそうなものも若干入れておきました。文構造などの解説も適宜付けました。

各章の最後には「**第～章...の底力**」として、その章のまとめのページを設けました。単なるまとめでなく、その章で学んだことが実際の英語使用においてどのように活用できるかについても述べています。

適宜、「**閑話休題**」のコラムを設けました。ウンチクのネタにでもしていただければ幸いです。

巻末に「**参考文献**」として本書を書く上で参考にさせていただいた文献を付しておきました。さらに専門的な事柄を学習したい方の参考になればと思います。